



学 校 便 り

令和8年7月8日
校長 奥泉 憲

私の夏休み カブトムシ の思い出

もうすぐ、夏休みです。今回は、私自身の小学生時代の夏休みの思い出を書きたいと思います。私は、相模原市の淵野辺というところで幼少期を過ごしました。小学校3年生の夏休みを前に、私は、友だちからカブトムシのさなぎを1匹もらい、成虫になるまでの過程を自由研究としてまとめることにしました。しかし、3年生だった私は、さなぎの育て方が分からず、毎日さなぎを手のひらにのせて観察していました。すると、そのさなぎは、成虫になると角が曲がり、足は6本中3本が動かず、背中の羽も右半分が開きませんでした。今思えば観察のために、私が、さなぎの時に触りすぎてしまったのが、きっと良くなかったのだと思います。そんなカブトムシの姿に、私は、3年生ながらにちゃんと成長させてあげられなかった責任を感じていました。ほとんど自力では動くことが出来ないカブトムシに、母親は「もささん」という名前を付けました。

夏休み後半にかけて、この「もささん」の周りで奇跡が起きました。ある朝、起きて「もささん」の虫かごを覗くと、カブトムシが1匹増えていたのです。次の朝には、新たに2匹のカブトムシが増えていました。うれしくて母親に報告すると、母親が言いました。「原因は分からないけど、もしかしたら、もささんの餌に引き付けられて飛んでくるかもしれないから、これから、もささんのあげる餌と一緒に考えよう。」その日以来、私は、母親と一緒にキュウリやスイカ、砂糖水や樹液などカブトムシが好きそうな餌を考えて、約2週間「カブトムシの餌実験」を繰り返しました。結局、その夏休み中、集まってきたカブトムシは12匹にもなりました。

今、この夏休みの思い出を振り返ると、毎朝、魔法のようにカブトムシが飛んできたこともうれしかったのですが、私が一番印象に残っていることは、母親が私以上に真剣になってどんな餌がいいかを毎日考えて、一緒に「カブトムシの餌実験」をしてくれたことです。せっかくの夏休みです。子どもたちに、日頃なかなか出来ないような体験をさせてあげてください。そして、保護者の皆様が子どもたちと一緒に真剣に楽しめるようなことなら、そんな体験は、きっと子どもたちにとって、素晴らしい夏の思い出になると思います。少し早いですが、素敵な夏休みをお過ごしください。

学校長 奥泉 憲

